

新型コロナウイルス感染症対策

マスクの着用について

新型コロナウイルス感染症の感染経路は、せき、くしゃみ、会話等のときに排出される飛沫やエアロゾル（空気中に漂う微小粒子）の吸入、接触感染等と考えられています。

そのため、3密（密接、密集、密閉）の回避、人と人の距離の確保、マスクの正しい着用、手洗い等の手指衛生、換気等の基本的な感染防止対策が重要で、市民の皆さんにその徹底をお願いしてきたところです。先般、国から感染防止対策のひとつであるマスク着用についての考え方が示されました。

これから気温・湿度が高くなり、熱中症のリスクが高まる季節になります。マスクの着用については以下を参考にしてください。

■屋外・屋内でのマスク着用について

- マスク着用は従来同様、基本的な感染防止対策として重要です。一人ひとりの行動が、大切な人と私たちの日常を守ることに繋がります。
- 夏場は熱中症防止の観点から、下記に示すマスクが必要ない場面ではマスクを外すことを推奨します。
- 高齢者と会う時や病院に行く時など、ハイリスク者と接する場合には、マスクを着用しましょう。

	身体的距離が確保できる（2メートル以上を目安）		身体的距離を確保できない	
	屋内	屋外	屋内	屋外
会話を行う	着用を推奨します （十分な換気など感染防止対策を講じている場合は外すことも可）	マスク必要なし 例：公園の散歩やランニング、サイクリングや鬼ごっこなどの密にならない外遊びなど	着用を推奨します	着用を推奨します
会話をほとんど行わない	マスク必要なし 例：距離を確保して行う図書館での読書、芸術鑑賞		着用を推奨します 例：通勤電車の中など	マスク必要なし 例：徒歩や自転車での通勤など屋外で人とすれ違うような場面

* 屋内とは…外気の流入が妨げられる、建物の中、地下街、公共交通機関の中など

■小学校就学前の児童のマスク着用について

2歳未満(乳幼児)

引き続きマスク着用は推奨しません。

2歳以上

オミクロン株への対応として、保育所等でも一時的にマスク着用を推奨してきましたが、オミクロン株対策以前の取り扱いに戻し、他者との身体的距離にかかわらず、マスク着用を一律には求めません。マスクを着用する場合は、保護者や周りの大人が子どもの体調に十分注意したうえで着用しましょう。

なお、施設内で感染者が生じたなどの場合、施設管理者等の判断により、可能な範囲でマスクの着用を求められることがあります。

